

今年初のM6超え地震が インドネシアで

プエルトリコ・パプアニューギニアでも

昨年12月25日のカナダM6.3以来発生していなかった世界M6以上地震が1月7日に計3ヶ所で相次ぎ発生した。発生したのはインドネシアM6.2とプエルトリコM6.4、それにパプアニューギニアM6.0。

これらの地震が起きる直前のタイミングで当社が計測していた危険度はインドネシアが13.3%、パプアニューギニアが11.3%で、米国自治区のプエルトリコは危険度未計測であった。

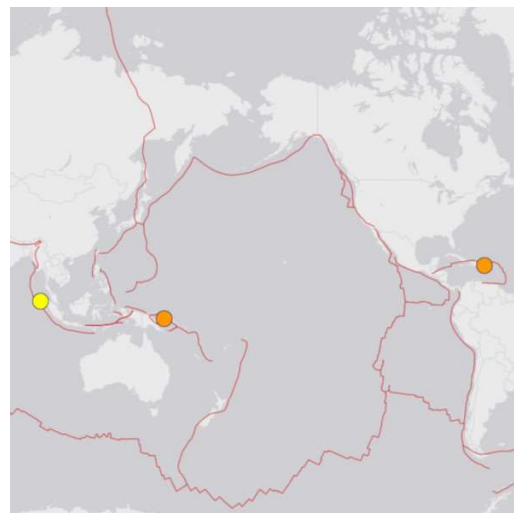
今回3ヶ所で発生した地震から過去の事例データを抽出したところ、パプアニューギニアで再度の地震が起きる可能性が示唆されており、2ヶ月以内のM6.5以上地震発生率が前回1月4日時点の

32%から43%に跳ね上がり、危険度も12.2%となった。

パプアニューギニアでは昨年7月以降M6を超える地震は起きていなかったが、今回の地震前には西側でM5.3が観測されていた。

またインドネシアも今回の地震によって2ヶ月以内M6.5以上発生率が前回の3.1%から3.9%へと上昇しており、危険度も通常時との比較で12.3%となっている。

インドネシアでは他にも、スラウェシ島そばのモルッカ海が現在高い危険度を示しており、通常時との比較で50.4%となっていることから、付近での強い地震に注意が必要な状況だ。



ニュージールランド 付近に注意が必要か

ニュージールランドで2ヶ月以内のM6.5発生率が2.4%と前回の2.0%から上昇しており、危険度も19.8%と高くなっている。またニュージールランド領のケルマデック諸島においても危険度が2.7%と高いことから、付近で強い地震が起き

る可能性がある。ニュージールランドでは01月04日に多数のクジラが海岸に打ち上げられたとのニュースもあり、巨大地震との因果関係は科学的に否定されているとは言え気になる状態である。

千島・アリュウ列島も 高危険度継続中

千島海溝沿いの千島列島や、アリュウシヤン

当社の地震分析・解析技術システムEDAS2.0に今回から新指数を導入した。

EDASでは過去の地震発生データ分析に様々な独自指数を加えており、「同一地点地震再発指数」「遠隔地発生地震影響度指数」「発生頻度調整指数」「発生時期重要度調整指数」など計10個以上

新指数導入で更に 進化したEDAS2.0

の独自指数によって危険度計測の精度を高めている。

今後も更なる新指数導入を検討・準備中。日々進化するEDAS2.0に乞うご期待！

(EDASはEarthquake Data Analysis Systemの略)

列島の西部においても危険度がそれぞれ20.9%、20.5%と高くなっている。またそれ以外のロシアでも危険度は18.0%となっており、引き続きの注意が必要だ。

カが14.0%、ペルーが13.5%などいくつかの国で通常より高い危険度となっている。

日本の危険度は 通常並み10.3%

01月03日に千葉県東方沖でM5.8・震度4、01月05日に硫黄島近海でM5.8・震度1とM6クラスが観測された日本では、現在の危険度は10.3%とほぼ通常時と同じ予測となっている。しかし、地震多発国であることから2ヶ月以内のM6.5発生率は3.1%と通常時から高いため、注意を怠ることは出来ない。

ニカラグアやアルゼンチンの中南米では01月03日にM5.5の地震が発生したニカラグアが危険度26.4%、また昨年12月24日にM6.0が起きていたアルゼンチンが19.5%とそれぞれ高くなっている。

それ以外でもメキシコが17.9%、コスタリ

【ご注意】本号は「海外地震レポート」創刊準備号です。制作に当たっては実際のデータを使用していますので、本号の転載・転送や再配信、データの利用はご遠慮下さい。 合同会社イイチロ

地震NEWS

国内の地震に関する情報は当社が運営する地震解説メディア「地震NEWS」もご利用下さい。

BiglobeNews、ExciteNewsでも配信しています。

<https://jishin-news.com/>

前回以降のM6.0以上地震

01月07日 M6.2
インドネシア

01月07日 M6.4
プエルトリコ

01月07日 M6.0
パプアニューギニア

今年のM6.0以上地震状況

M6.0以上 003回 (前年143回)
M6.5以上 00回 (前年 33回)
M7.0以上 00回 (前年 10回)

これまでの最大規模地震(前年)

01月07日 M6.4 プエルトリコ
(05月26日 M8.0 ペルー)

2020年01月07日 (UTC) まで

各種データ

地震発生率一覧

当該国における2ヶ月以内のM6.5以上地震発生確率を最近の世界地震発生状況から算出しています。

01. 42.8% パプアニューギニア
02. 39.2% インドネシア
03. 32.1% ロシア
04. 31.4% ニカラグア
05. 31.2% 日本
06. 29.9% メキシコ
07. 29.4% 中国
08. 29.0% アラスカ
09. 26.8% チリ
10. 26.8% フィジー
11. 25.7% ソロモン諸島
12. 25.0% コスタリカ
13. 25.0% フィリピン
14. 24.4% トンガ
15. 24.3% ニュージーランド
16. 22.8% アリュ列島
17. 21.7% アルゼンチン
18. 21.4% カナダ
19. 20.5% 米国
20. 20.2% ペルー

2020年01月08日現在

危険度指数一覧

2ヶ月以内のM6.5以上地震発生危険度を現在の状況及び当該国の発生頻度から算出し指標化しています。各国毎の相対的な危険性を示しています。

創刊直前号につき省略
一覧は本サービスで
ご覧いただけます。

危険度指数変化

前回から危険度指数が変化した国について、上昇率・下落率それぞれの上位を示しています。

創刊直前号につき省略
一覧は本サービスで
ご覧いただけます。

※本紙記事及び掲載データの転載は固く禁じます。※本紙掲載データの営利利用に際しては当社との間に別途コンサルティング契約が必要となります。※本紙は地震の発生・不発生を保証致しません。当社では一切の責任を負いかねます。※画像は気象庁及び米国地質調査所より。

海外地震レポート

第00003号

2020年01月08日発行

発行社：合同会社イイチロ

発行人：門田威一郎

東京都新宿区西新宿1-26-2

新宿野村ビル32F

電話：03-5322-2895

URL：<https://iichiro.com/>